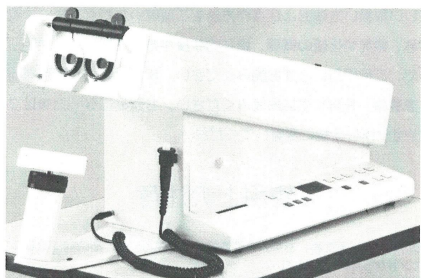


準備物 記録用紙



調節検査-アコモドメータ 例) KOWA NP

説明書より



目的

調節機能の評価, 調節障害の自覚的検出

初期設定は*印



検査対象

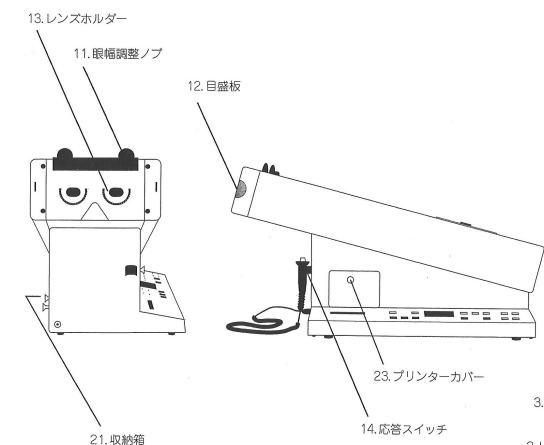
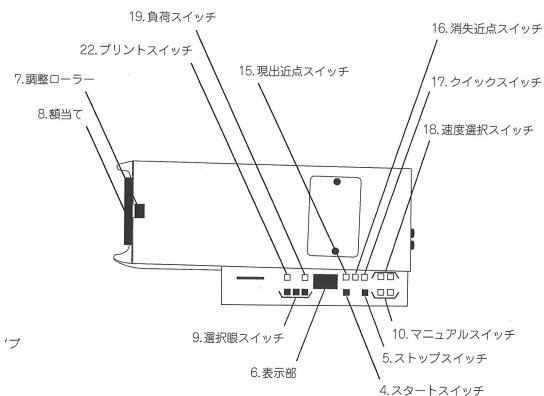
- ・眼精疲労の診断
- ・近視障害を訴える疾患や外傷
- ・調節不全及び衰弱など

消失法と現出法により違う。

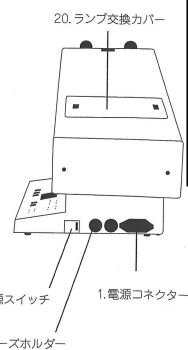
被検者に完全矯正レンズを装用させ、本体の電源を **ON** にする

調整ローラーを回して額あてを前後させ、被検者の角膜頂点を目盛板の十字線の中心に合わせ、**眼幅調整ノブ**を持ち、瞳孔間距離を調整する

選択眼(左眼/右眼/ * 両眼) **スイッチ**を選択し、**マニュアルスイッチ**にて明視できる距離に視標を移動させるか見本の視標を見せて、中央のランドルト環が明瞭に見える状態を認識させ、被検者に視標がはっきり見えた時点または見えなくなった時点で**応答スイッチ**を押すように指示する



もし完全矯正でないなら理論上誤差が出るので、マニュアル操作で遠点も測定すべきである。



* **現出**(視標 50mmから遠方に移動)と**消失**(視標 400mmから近方に移動) **近点スイッチ**を選択し、被検者にあわせて**速度**(高速/ * 低速)**スイッチ**も選択する

連続近点検査

スタートスイッチを押し **10回**連続後、自動的に停止するまで(検査時間を短縮させる為に離れる方向に移動している途中で**クイックスイッチ**を押すと、次からは**クイックスイッチ**が押された時点での視標位置からのスタートにすることもできる)被検者には指示通り、**応答スイッチ**を押させる

マニュアル操作

石原式近点計と同様に行う(現出法で行う場合は、視標を近くから離してゆく)

負荷機能

マニュアルスイッチで視標を移動させ、明視できる範囲で往復運動の中心位置を設定する

±50mmの範囲で往復運動をするので、近点の位置より5cm位遠方が良いかな。

負荷スイッチを押し、**速度**(高速/ * 低速)**スイッチ**を選択し、**20 往復**して自動的に停止するまで、被検者には指示通り、**応答スイッチ**を押させる

プリントアウト例) 連続近点検査

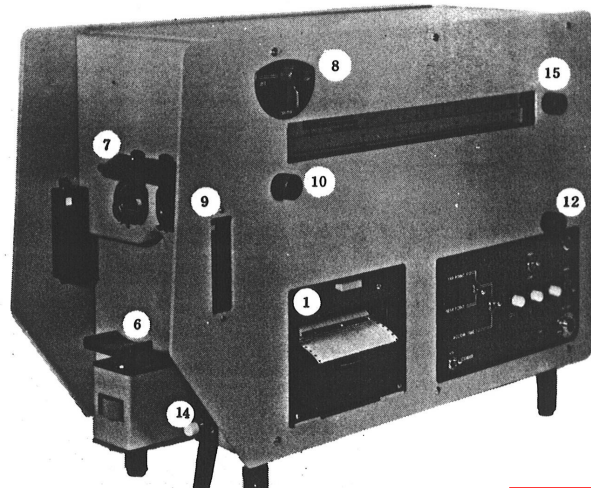
グラフの表示が不要な場合は、ストップスイッチを押しながら、電源スイッチをONに。元のモードに戻すには電源スイッチをOFFにしてから再度ONにする。



10 回の近点と平均とそのグラフ 回数

検査が終了したら、**プリントスイッチ**を押し、検査結果をプリントアウトする

準備物 記録用紙



被検者に完全矯正レンズを装用させ、本体の電源を **ON** にする

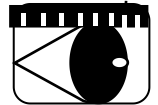
⑧切替ノブを検査眼に応じ、切り替える(**CENTER** は輻湊近点にも使用可)

被検者の眼の高さにして **20cm** ほど離れて⑨窓口から被検者の眼を見ると、目盛が上部に見えるので⑩ノブで**近点スケール**の目盛りとを角膜頂点の上部の目盛を合わせ

⑪スイッチで **NEAR POINT** に切替え、⑫手動ノブ又は ⇨(離れる) ⊙(止まる) ⇩(近づく) ボタンにて通常近点視標を **20cm** 前後にセットし、中央のランドルト環が明瞭に見える状態を認識させる

検査対象

- ・眼精疲労の診断
- ・近視障害を訴える疾患や外傷
- ・調節不全及び衰弱など



近点検査(手動)

⑫手動ノブにて、現出法の場合は近くから離してゆき、はっきり見ると言った時点で止め、記録する

数回繰り返す

近点検査(自動)

⑬スイッチで視標の速さを **HIGH/LOW** を選択し、現出法の場合は出発点を眼前近くに ⇨ ボタンを押し、はっきり見ると言った時点で⑭押ボタンを押すようにさせ、記録する

遠点検査(手動)

⑪**FAR POINT** に合わせ現出法の場合⑮ノブを回して最も遠くに置き徐々に近づけ、はっきり見ると言った時点で止め、記録する

数回繰り返す

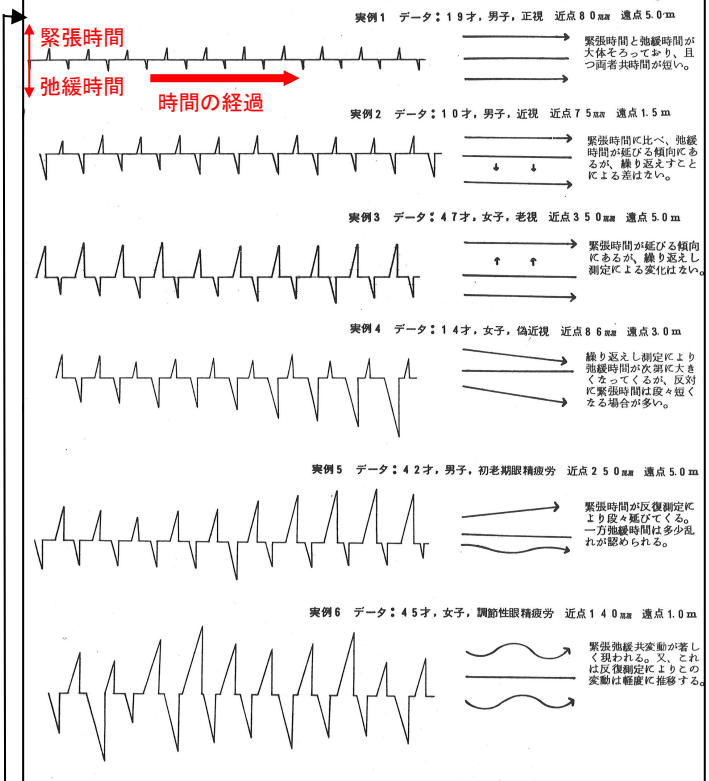
調節時間測定

⑯スイッチを **ACCOM TIME** に合わせ、近点視標、遠点視標にそれぞれ合わせると **5秒** 間隔で交互に距離が切り替わるので、はっきり見えた時点で⑭スイッチを押すようにさせる

⑰**RECORDER** を **ON** にすると記録紙が送られるので、**10~15 往復** させて記録する

⑯⑰スイッチを切り、記録紙を必要量引き出して切り取る

プリントアウト例) 調節時間測定



完全矯正していると ∞ (5m) が明視できてしまうので、遠点・近点とも低矯正にするか、遠点のみ低矯正して近点より低矯正した分戻してあげて調整力の計算をすること。